

今、何の病気が流行しているか！

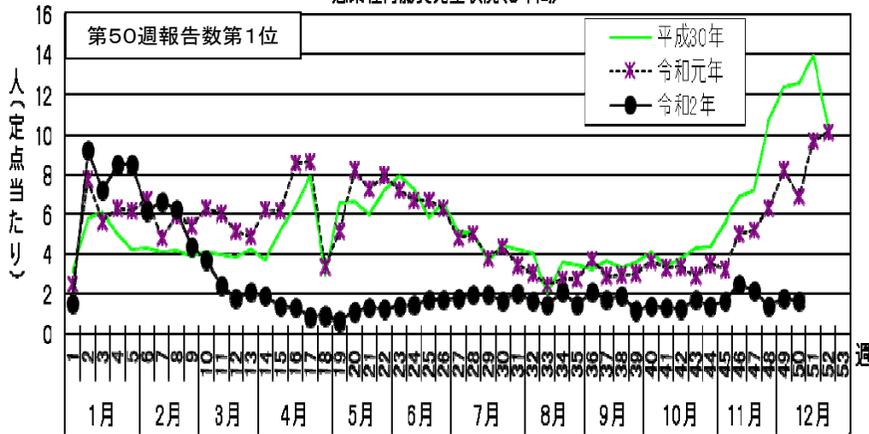
【感染症発生動向調査事業から】

令和2年12月7日（月）～令和2年12月13日（日）〔令和2年第50週〕の感染症発生状況

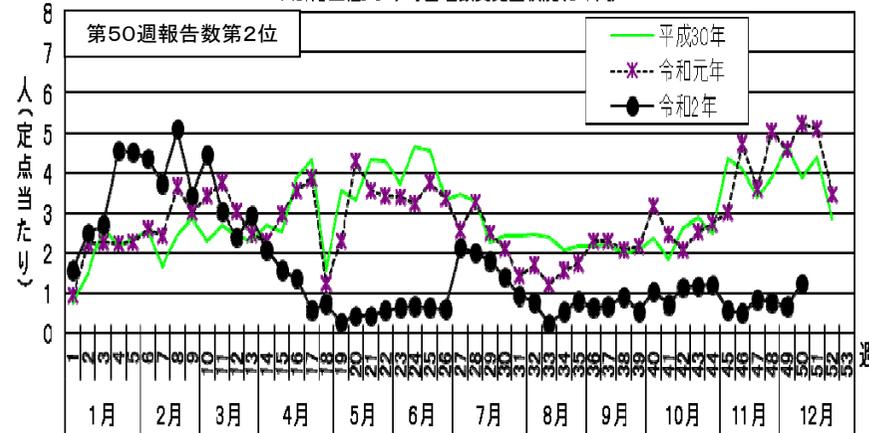
第50週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 突発性発しんでした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.65人と前週（1.78人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は1.24人と前週（0.70人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。
 突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.38人と前週（0.30人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)

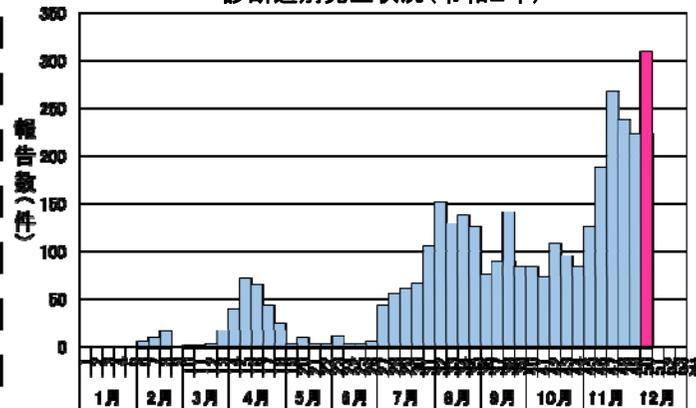


年末年始の帰省や旅行の際の注意点～新型コロナウイルス感染症～

現在、首都圏を中心に新型コロナウイルス感染症の報告数が増加しています。川崎市においても令和2年第50週（12月7日～12月13日）の報告数は309件と前週より増加し、300件を超えました。

例年この時期には、年末年始の帰省や旅行などを計画される方もいらっしゃると思います。今年は感染症予防の観点から、可能な限り混雑を避けていただきますようお願いいたします。特に発熱等の症状がある方は、人の集まる場所へ出かけることは避けましょう。また、年末年始の休暇の分散取得や、帰省の延期なども是非御検討ください。

川崎市における新型コロナウイルス感染症の診断週別発生状況(令和2年)



帰省や旅行の際の感染予防

- ・可能な限り混雑を避ける
- ・発熱等の症状がある方は、無理をせず自宅で療養する
- ・休暇は分散して取得する
- ・帰省の延期を検討する